**RSウイルス感染症**

【疫学】

・2歳以下の乳児に多く見られる。

・低年齢や虚弱な乳児ほど重症化しやすい。生後６週〜３ヶ月の心肺系、免疫疾患は際重症化リスク

・冬から初春かけて流行するウイルス

・感染経路は飛沫感染

・多くは4〜7日で改善に向かうが時に急速に呼吸困難が増強して死亡することがある。

【病態】

　RSウイルスは冬から初春かけて流行するウイルスであり、2歳までには誰もがかかる普遍的なウイルスである。5〜８日の潜伏期間を経て、発熱や鼻水など、典型的な風邪の初期症状があらわれる。初めて感染した子供の内20～30％は、下気道（喉より下部の呼吸器）にウイルスが感染し、気管支や肺に炎症が起こる。

|  |  |
| --- | --- |
| 乳児期 | 肺炎や気管支炎など、肺胞にきわめて近い部分で気管支炎を起こすことが多い。思い呼吸困難を伴う喘息様の症状をきたすこともあり、酸素と二酸化炭素の交換も傷害されるため、血中酸素飽和度も低下してチアノーゼを起こし、顔色が悪くなる。 |
| 幼児期 | 喘息性気管支炎を起こす。乳児期よりも軽度であるが、気管支拡張薬を投与しても、感染が絡んでいるため、反応はあまりよくなく、しばしば咳や喘鳴が長引く。 |

【症状】

1咳嗽(進行性)、喀痰

2鼻水と咽頭炎(初期症状)

3発熱(微熱)

4中耳炎の合併

５呼吸

1. 呼吸数増加
2. 呼吸困難感
3. 努力呼吸

・多呼吸

・鼻翼呼吸

・陥没呼吸

1. 喘鳴(進行性)
2. 低酸素血症
3. 下気道症状

・気管支炎

・肺炎

・無呼吸

６哺乳不全

７チアノーゼ

【検査】

　・RSウイルス感染症簡易検査キット：綿棒などで鼻の粘膜を取り、約30分で結果がわかる

　　・胸部X線検査：肺に影があるか、間質性肺炎像の有無

　　・血液検査：白血球・CRPの上昇

【治療】　根本的な治療法があるわけではない(支持療法)

　軽症　加湿酸素投与、静脈内点滴、吸引

　重度呼吸困難　気管内挿入、人工換気

　ハイリスク　薬物療法

薬物療法

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 分類 | | 一般名 | 商品名 | 薬理作用 | 副作用 |
|  | | リバビリン |  | 抗ウイルス |  |
| β２刺激薬 | |  |  | 気管支平滑筋の弛緩による気管支拡張 | 心悸亢進、不安、不眠、頭痛、悪心、嘔吐、めまい、高血糖 |
| キサンチン誘導体 | | テオフィリン徐放製剤 | テオドール、  テオロング | 気管支拡張、抗炎症作用 | 悪心、嘔吐心窩部痛　など(血中濃度に依存)　　　　　　　　　　　6歳未満に血中濃度15μg/ml以上は痙攣リスクとなるため禁忌 |
|  | | 抗コリン薬 |  |  | 口内乾燥、眼圧上昇、心悸亢進、排尿困難 |
| 吸入ステロイド薬 | |  |  |  | 長期使用による、最終身長の低下、副腎皮質機能抑制、骨代謝障害 |
| 受動免疫療法 | RSウイルス免疫グロブリン |  |  |  |  |
| パリビズマブ |  |  |  |  |

　　・気管支拡張薬や吸入ステロイド薬による気管支拡張により、呼吸を促す

【合併症】

１呼吸不全

２無気肺

３中耳炎

【看護】

観察

１環境(温度、湿度、気流)

２体位、寝具、衣類は適切か。圧迫していないか

３睡眠

1. 時間
2. 熟眠感

４食事水分摂取量

５バイタルサイン

1. 体温
2. 血圧
3. 心拍
4. SpO２

６鼻汁

７咳嗽、喀痰

1. 湿性、乾性咳嗽
2. 気道分泌物の量、性状、貯留部位
3. 咳嗽時の嘔吐の有無
4. 咳嗽発作の時間、回数、持続的か単発的か

８呼吸状態

1. 呼吸回数
2. 努力呼吸
3. 呼気、吸気の時間比
4. 喘鳴、肺雑音、AIR入り、呼吸音減弱の有無

９顔色、活気、機嫌

10口唇色、爪床

１１チアノーゼ、四肢冷感の有無

１２ショック状態の有無

１３脱水の有無

1. 口渇
2. 口唇、航空の乾燥
3. 大泉門、眼窩陥没
4. 発汗
5. 尿量
6. 皮膚のカサつき、ツルゴール

１４体重

１５血液データ

1. 脱水(Cl、K、Na)
2. 感染(RBC、WBC、CRP)
3. 栄養状態(TP、 Alb

16悪心、嘔吐

１７痙攣の有無

・頭部を挙上して安楽な体位を取らせる。

・必要時、吸引を行い気道浄化、酸素投与

・水分摂取

・水分出納を正しくモニターする。

・毎日体重測定を行う

・食事は少量で回数を増やす、高たんぱく質の食事

・重症化しないように、患児の呼吸状態の変化には注意する

・家族内感染、院内感染を起こしておいないか確認する。手指衛生の徹底

・予防的隔離を行う